

地域団体の紹介

汐見台自治会

汐見台自治会 会長 松井 教

汐見台自治会の会員世帯数は305世帯。一戸建世帯が約50世帯、マンション・アパート世帯が約250世帯の皆さまが運営する自治会です。

自治会イベントは「地引綱大会」「ハロウィン」「もちつき大会」「いきいき会日帰り旅行」ですが、今年度は天候に恵まれず「地引綱大会」「もちつき大会」が中止となりました。

可愛い仮装、楽しかったハロウィン!!1歳から小学6年生までの子どもたち49名が、高齢者施設2か所を皮切りに8軒のお家を訪問しました。「Trick or treat(トリックオアトリート)」と言いながら、「ハッピーハロウィン!」と応えてお菓子を手渡し、「ありがとう!」の微笑ましい時間でした。町内会をお父さん、お母さんと共に150名が巡り廻り、8ヶ所でパトロールして下さった皆さまと共に楽しいハロウィンができました事、感謝いたします。



2月の「いきいき会日帰り旅行」は、河津桜見物の予定です。春を先取りできる、さくら見物を楽しみにしております。

松浪小学校区青少年育成推進協議会

松浪小学校区青少年育成推進協議会
会長 櫻井 武一

松浪小学校区青少年育成推進協議会は10名の役員で活動しております。毎月一回の定例理事会では、松浪小学校・松浪中学校・浜須賀中学校の学校を中心とした情報を地域の方々と共有し、協力・連携しながら子どもたちを見守り育成を進めております。

また、年間を通して多くの行事を実施しています。

青推進独自の行事: 7月「子ども大会」・11月「みかん狩り」

小和田公民館等との共催事業: 「おもしろいっぱい遊び空間」

(年3回)、6月「研修会」、9月「子育て支援講座」、12月「ちびっこ広場」、3月「公民館まつり」

8月の盆踊り大会と10月の福祉ふれあいまつりでは、模擬店の協力などしております。

これらの活動では、松浪中学校及び浜須賀中学校の生徒さんにボランティアとして参加してもらい、小学生の工作作りのお手伝いや焼きそば作りをお願いしております。また、これらの行事や活動の様子を年2回発行の「浪っ子」で詳しく紹介しております。

今後とも地域の皆さまと一緒に、子どもたちが笑顔で健やかに成長できるよう、引き続き頑張って活動していきたいと思っております。



緑が浜小学校PGT(みそ&ピザ手作り教室)

緑が浜小学校PGT 副会長 椿 恭子

令和2年2月13日(木)、PGTの親睦行事としてみそ&ピザ手作り教室を開催いたしました。講師には、元PGT会長の刈間昌仁さんをお迎えし、Gにあたる祖父母の方や保護者の方々にご参加いただき、終始和やかな雰囲気でした。

前日から水に浸けたみそ用の大豆を茹でている間に、4人1テーブルでまずはピザ作り。粉を捏ねて伸ばして、持ち寄ったお好みのトッピングをのせたらホットプレートへ!焼くまでの工程がとても簡単で手軽に出来ることに驚き!お母さん方からは、子どものおやつにいいね!という声も聞かれました。各テーブル色とりどり、和洋さまざまな具材で工夫されており、みんなで美味しくいただきました。

お腹が満たされたら次にみそ作りです。茹で上がった大豆をフードプロセッサーで潰してから麴と混ぜるのですが、なにせ大量の大豆!潰すのに大苦戦!昔の人はこれをすり鉢でやっていたと聞き、今のおみそを美味しくいただけるのは先人の苦労あつてのことなんだとしみじみし、ひたすら潰すこと30分強...ようやく麴と混ぜ合わせ、最後は念入りに空気を抜きながらタッパーに詰めました。空気の入りやすい縁に塩を詰めておくのがコツなんだとか。これを冷暗所で6ヶ月。各家庭で美味しいみそが出来た事を祈りつつ、皆さん大事ながらのクッキング。笑顔溢れる素敵な時間を過ごすことが出来た1日でした。6ヶ月後が楽しみです。



常盤町自治会

常盤町自治会 会長 高橋 一紀

常盤町は市の南東端にあり、東は藤沢市、北は浜竹4丁目、西は富士見町、緑が浜、南は汐見台に接し、現在575世帯、1,354人(昨年12月時点)が暮らしています。自治会は2~9班の8班に分かれ、事業部は防犯、福祉、広報、環境、防災、子ども、体育があります。これらの各班長、副班長と各事業部の部長、副部長ならびに会長、副会長、会計、監査、書記、民生委員が集まって話し合う役員会が、月に1度開催されています。

自治会独自の活動としては、地引綱大会、ジャガイモ掘り、常盤町ジャンボリー、バス旅行、餅つき大会を毎年開催し、常盤サロン(年5回)、防犯パトロール(月2回)を実施しています。このうち、ジャガイモ掘りは町内の畑で行う子どもたち向けのイベントで、常盤サロンは、高齢者向けの音楽、マジック、体操などを行う催しです。

これらの活動や役員会の動向などは、毎月自治会だよりを全戸配布するほか、ホームページにも掲載しています。町内には松林も公園もありませんが、いつまでも平和な暮らしがみられる町であることを願います。



編集後記

この1年間、「まつなみだより」で松浪地区の様々なイベントや団体、そしてすてきな煌人をご紹介してきました。改めて松浪地区は愛があふれる温かな街であることを感じ、こんなすてきな街に住んでいることを幸せに思います。いろいろご協力していただきました皆さま、ありがとうございました。(汐見台小学校区青少年育成推進協議会 副会長 佐々木睦子)

まつなみだより

令和2年の新春を迎えて

松浪地区まちぢから協議会 会長 植松 伸擴

松浪地区の皆様には、「令和」と年号が変わった最初の新春を迎えて、ご家族お揃いで新しい年をスタートされた事とお慶び申し上げます。いよいよ2020年東京オリンピック・パラリンピックイヤーの幕が開き、オリンピックやパラリンピックの代表選手選考のニュースが新聞やTVを賑わしています。茅ヶ崎市も北マケドニア共和国選手団のサポート都市になって、オリンピックをサポートする活動が始まっています。

昨年秋の台風15号、19号の来襲から続く天候不順、今年の冬は暖冬と言われインフルエンザによる小学校の学級閉鎖は少ないと思っておりましたら、ここに来て中国の春節を期に新型コロナウイルスによる肺炎の問題がにわかにくローズアップされ、世界的な問題に発展し、感染者や亡くなる方の数も日増しに増えており、適切な対応による問題の早期の収束を願うばかりです。

茅ヶ崎市でも佐藤市長による行政運営が定着し、令和3年度から始まる10年間の茅ヶ崎市総合計画の立案への動き、ゴミの有料化に向けたごみ減量化基本方針や公約に上げておられた中学校の給食の問題、広域避難場所に指定されている茅ヶ崎ゴルフ場の利活用などと、大きな問題が提起されております。

松浪地区まちぢから協議会も発足して5年を迎え、新年度に向けて各自治会を始め諸団体でもメンバーの交代などが話題になっています。私も浜竹一丁目自治会の会長として、自治会連合会の時代から服部市長の提案で始まった新たな



令和2年3月15日発行(第19号)
発行: 松浪地区まちぢから協議会
HP: <https://matunami.jimdo.com/>
印刷: (有) 仲手川印刷



地域コミュニティ制度についてのワーキンググループに参加し、平成25年5月にモデル地区として発足した、松浪地区まちぢから協議会の立ち上げにも参加しました。

その後の試行錯誤の時代を経て、平成29年3月に松浪地区まちぢから協議会も市長の認定を受けました。平成27年からは茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会の副会長として、連絡会の運営にも参加してきました。

なお、松浪地区まちぢから協議会は松浪コミュニティセンターの指定管理業務を引き受けております。私は平成28年4月から松浪コミュニティセンターの館長を務め、昨年10月には開館5周年記念式典と、初めてのコミセンまつりも行うことができました。平成27年4月の開館以来5年間、コミュニティセンターの運営に協力して頂きました9名の事務員さんは全員退職され、全て新しい方になりました。コミセンの業務は多岐にわたり、しばらくの間は不慣れのため何かとご不便をおかけすることもあるかと思いますが、暖かく見守り育てて頂ければ幸いです。

私は令和2年5月の総会で、松浪地区まちぢから協議会の会長を交代いたします。10年以上続けてきた自治会役員としての活動にピリオドを打ち、今後は一会員としてお手伝いしていきたいと思っています。松浪地区の皆様には長い間お世話になりました。

新年度に向けて松浪地区の更なる発展と住民の皆様のご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶いたします。

松浪地区まちぢから協議会って?

「松浪地区まちぢから協議会」は、松浪地区内の全て(14地区)の自治会代表者と各分野の地域団体の代表、公募委員から構成されています。

市からの支援を受け、地域内の様々な活動の実施や課題等の発見、解決をしていくことを目的とし、役員会や運営委員会、部会活動といった協議の場が定期的に開催され、メンバー間での情報共有、課題解決に向けた話し合い等を行っています。

地域特有の課題解決にあたり、地域のことを一番理解している地域の方々が当事者意識を持って主体的に取り組むことで、課題解決はもとより、自主性の醸成、新たな担い手の発掘など、地域力の向上につながっています。

また、松浪地区まちぢから協議会は、指定管理者として「松浪コミュニティセンター」の管理運営を担っています。



松浪地区の世帯数・人口(令和2年2月現在)
世帯数: 10,495世帯 人口: 24,956人

松浪地区賀詞交歓会が開催されました

令和2年1月11日、松浪コミュニティセンターにて「松浪地区賀詞交歓会」が開催されました。最初に、松浪小学校チアダンス・バトンクラブの12名の皆さまにより、1階のフリースペースで躍動的なチアダンスとバントワリングが披露されました。笑顔いっぱいのパワーを新春からチャージしてくれる力強さが、参加者の一年の前進を強く後押ししてくれているような迫力ある演技でした。



場所を移し、2階ホールで賀詞交歓会が始まりました。73名のご出席のなか、佐藤市長をはじめ、中山教育推進部長のご祝辞をいただき、その後、松浪中学校亀田校長の乾杯によって和やかにスタートしました。8回目のご出席の亀田校長から乾杯のご挨拶のなかで、中学校の生徒の皆さまにも「顔の見えるあたた

かい街」として、地域の皆さまに支えられていることが子どもたちにも伝わっているというお話しが披露されておりました。後に、児童や生徒が茅ヶ崎の松浪地区を支える人材となっていくための基盤は、いまの大人のわたしたちが創っていることを改めて感じ入るお話でした。

あたたかな街という感覚は、日頃顔を見知っているけれども、ゆっくりお話したことがないというそれぞれの皆さまと、何のてらもなくただおしゃべりさせていただく楽しく貴重な、こういった場があるからこそ生まれると、2時間のなかで生まれたあちこちの雑談の輪に入れていただきながら、感じておりました。

「街をつくっていく年齢世代を超えた仲間との交流は楽しいよ」ということを、多くの皆さまにもお伝えしたい、自治会活動や各種地域のボランティア活動に興味を持ち、参加くださる方がもっと増えもっと楽しくなるようにと願い、賀詞交歓会の報告といたします。

(記：鈴木、土屋、椿、和田)



視察研修報告

松浪地区まちぢから協議会では、毎年2月に運営委員会メンバーによる「視察研修」を実施しています。今年2月19日に、厚木市にある「神奈川県総合防災センター」と、相模原市にある「JAXA宇宙科学研究所」に行きました。

2018年にリニューアルされた「総合防災センター」では、地震体験コーナー、風水害体験コーナー、消火体験コーナー、煙避難体験コーナーでリアルな体験をしました。特に、地震体験コーナーでの最大震度7の疑似体験では立つことができず、大型スクリーンに映った映像を見ながら実際の地震の恐怖を感じました。防災シアターでは、津波や火山の噴火の仮想ストーリーを見て、自然災害の危険性やいざという時の備えなどを学ぶことができました。リアルな体験を通して災害を身近に感じ、自助・共助・公助の必要性を改めて考えることができました。

「JAXA宇宙科学研究所」は日本の宇宙科学研究の中核になる研究所です。キャンパス内に入ると、M-Vロケットの実物機とM-3SIIロケット原寸模型が展示してあり、ロケットのスケール感を体感しました。宇宙科学探査交流棟の展示フロアでは、ペンシルロケット、飛翔体コーナー、液体燃料エンジン、再使用ロケット実験機、ソーラーセイル(宇宙ヨット)、大気球が展示されていました。



事前にこの研究所の展示解説ツアーで勉強された植松会長が、展示品の内容やJAXAのロケット開発の歴史、それにまつわるお話をわかりやすく説明してくださいました。特に大気圏突入をした「はやぶさ」のカプセルの展示や、2019年に小惑星リュウグウに人工クレーターを作り、2回のタッチダウンに成功した「はやぶさ2」の実物大の模型コーナーは興味深いものがありました。売店には、「はやぶさ」のグッズや宇宙食まで売っていて驚きました。

今回の視察は、「防災」や「宇宙科学」について大人から子どもまで楽しく学べる施設だったので、とても充実した1日になりました。(記：佐々木)



煌人にエール!! Vol.3 松浪地区出身の煌人(きらびと)をご紹介します、エールを送りましょう。

今回の煌人は、美住町出身の鈴木彩加さんです。彼女は現在、プロボディボーダーとして海外を中心に活躍しています。2018年のボディボード世界選手権で、日本人初の年間チャンピオンとなりました。

5月のチリ、8月のオーストラリア、9月のポルトガル、10月のポルトガル(ナザレ)と年間4戦を競い、アレクサンドラ・リンダ(ポルトガル出身)さんと同点になり、同ツアー史初となるマッチレースを行い、これを制しました。このスーパーヒートは歴史に残る快挙です。2019年度は連覇を目指し、7月にはチリで優勝し前半は首位でしたが、ツアーでの年間成績は2位となり、2連覇を逃しました。

1995年に美住町で生まれ、松浪幼稚園、松浪小学校、浜須賀中学校に進みましたが、ウインドサーフィン好きの家族の中で、週末は当たり前のように海でした。3歳上の兄はサーフィンでしたが、彼女はボディボードを楽しみ、8歳から競技を始めて国内ツアーで何回か優勝し、中学3年で世界に挑戦し、15歳でプロに転向、藤沢西高校を卒業してからは本格的に世界に挑んできました。「国内の人達と違い、海外の人達は人と人とを比べないし、外国人と居る方が、自

分が自分らしく居られるので、海外の方が肌に合います。」とのこと。

『好きな言葉は「Everything happens for Reason(起こること全てに意味がある)」で、自分大好きで楽しくポジティブに生きています!』とキュートなルックスとトークに、メンタルの強さを感じました。

昨年、ハワイの男性と婚約したので、これからはハワイが中心の活動にはなると思うとのこと。日本には年間1~2ヶ月ぐらい帰り、1回の滞在は1週間ぐらいになってしまうが、ボディボードを多くの人に知ってもらい、ユーチューブやインスタグラム、ブログなどで、魅力を発信し続けて、もっと楽しむを増やして、メジャーなスポーツにすることを目指し、活動を続けていきたいとのこと。(記：朝岡)



第12回松浪ふれあいネットワーク交流会

—住み慣れたまちの地域福祉を考える地区懇談会—

浜竹一丁目自治会長 中井 汎

令和2年2月8日、「第12回松浪ふれあいネットワーク交流会」(松浪地区社会福祉協議会・松浪地区まちぢから協議会共催)が、松浪コミュニティセンターで開催されました。

現在、茅ヶ崎市では「みんながつながる ちがさきの地域福祉プラン」に基づき福祉行政が行われていますが、令和3年からの次期プラン策定にあたり、地域住民の意見や課題を取り入れるため、市の福祉政策課、市社協、松浪地区の福祉関係者総勢71名が一同に会し、10グループに分かれて意見交換を行いました。

意見交換会後に、各グループからその内容が報告され、各グループとも「担い手不足」に対する意見が最も多く、こ

の担い手不足を解消するためには、地域住民の福祉・ボランティアに対する意識を高めることが必要で、住民同士がお互いに支え合う「つながりづくり」と共に「居場所づくり」が必要で、公園がもっと欲しい、空き家を集会場として有効活用できないか、町中にベンチを設置してほしいなどの意見が多くありました。この他にも多くの提案・要望が出されましたが、地域福祉の推進に役立つことを期待したいです。

今回のテーマは次期計画のための意見交換でしたが、1年に1度、地区の福祉関係者が顔を合わせ、お互いを知り、地域の福祉ネットワークを意識することも大きな目的であり、有意義な交流会でした。

